

大気浮遊じんモニタリング結果について

(令和7年10月15日から令和8年1月14日までの評価)

●渡邊正己京都大学名誉教授(南相馬市放射線健康対策委員会委員長)による解説

令和7年10月15日より令和8年1月14日の大気浮遊じんに含まれる市内の放射エネルギーに異常値はありませんでした。安心してお過ごし下さい。

私は昨年末、久しぶりに福島第一原発へ視察に行きました。以前より整理整頓され、作業員の服装も平服が多くなっていて、ここが重大事故現場という印象は受けませんでした。

ちょうどアルプス処理水の放出をしている時期で、整然と進む状況を見学しました。

しかし、事故後15年を経ても復興は、まだまだ入り口です。関係者には、二次災害が起こらないように配慮した行動をお願いしてきました。私たちも原子力や放射線に対する基礎知識を増やし、今後の復興の動きを注意深く理解し、安全確保に力を注ぎましょう。